

2024.11.18



今年世界的にかつてないほど選挙の当たり年でした。主要国の選挙を挙げると、台湾総統選(1月)、インドネシア大統領選(2月)、ロシア大統領選(3月)、インド総統選(5月)、メキシコ大統領選(6月)、EU欧州議会選(同)、イギリス総選挙(7月)、日本総選挙(10月)、アメリカ大統領選(11月)等々。

の現状において、民主主義の基盤をなす「選挙」というものについて、色々な角度から考え直してみたいと思います。

民主主義はコスパが悪い

それぞれの選挙が多額の時間と金とエネルギーを消費するものであることは間違いありません。予備選挙から勘定すると選挙活動に2年以上かかるアメリカ大統領選は別



チャーチル首相

政治不信と民主主義の危機

日本の選挙はなぜ金がかかるのか

格として、その他の国でも毎回大変な騒ぎです。裁国家にとてまかないません。

札束は飛ぶし、候補者同士の激しい誹謗中傷合戦、果ては殺傷(暗殺)事件等々、何でもありでヤーチルの有名なセリフ

昔は民主主義は輝いていた



終戦直後の社会科教科書の表紙

ただ、私たちのように、日米戦争が終わった1945年に8歳、小学3年生だった戦中派世代の者には、生まれて初めて目にする民主主義という言葉

の教科書は軍国主義をおもものだからというところで、全面的に使用が禁止され、代わりに配布された薄っぺらの教科書の

して最善でも理想的なものでもなく、極めて欠点だらけの制度だ、だからこそ不断の注意と努力によって慎重に運用していかなければならないのだと痛感します。

とくにこの数年来、民主主義のお手本だったはずの米国で民主主義を否定するような「トランプ旋風」が吹き荒れ、政治や政治家が昔に比べて著しく劣化したように見え、「民主主義の危機」ということを痛感します。

(2面に続く)

令和つれづれ草

44

金子熊夫

民主主義はこうして生まれた

ここで、少し寄り道をして、そもそも民主主義とは何か、歴史的にどのような経緯を経てきたかを振り返ってみたいと思います。と言っても、それを限られたスペースの中で論ずるのは到底不可能なので、駆け足でおさらいしてみよう。

古くは、ギリシャ・ローマ時代から何千年もかけて、多くの試行錯誤を経て現在のようになっているものもある。英語の「デモクラシー」の語源は古代ギリシャ語で「人民・民衆を意味する「デモス」と、権力や支配を意味する「クラトス」を組み合わせたもので、「人民権力」「民衆支配」「国民権」などの意味を持つと考えられます。つまり、現代民主主義国家では、人々は選挙権行使して自らの代行者（代議員）を選ぶ。選ばれた代議員は自己を選出した人々の意思を代行し、多数決・法治主義の下に権力を行使するということだ。

民主主義の基礎となるのは選挙です。古代ヨーロッパの都市国家

代ヨーロッパの都市国家や、現在でもスイスのように人口の少ない国では、直接民主主義制で、原則的に全国民（市民）が審議や決定に参加しますが、大部分の国では間接民主主義制をとっています。その場合でも、昔は哲人（知的エリート）や貴族など上流階級の人たちが選ばれて議会を構成していましたが、幾度かの革命や政治改革を経て現在のようになっています。

現在のロシアのように形式上大統領選挙制をとっているものの、プーチン氏が20年余にわたって大統領に居座っている国、北朝鮮のように完全に一家の世襲制なのに、国名ではやっぱり「朝鮮民主主義共和国」（DPRK）を名乗っている国など。

日本の政治と選挙制度の問題点

また、変わったところでは、昔インドネシアで独立後長年政権を担当したスカルノ大統領（日本のテレビなどでおなじみのデヴィ夫人の夫は、総選挙でも最大の争点に

た国や政治家はいまだかつてどこにも存在したことがありません。人類永遠の課題と言えましょう。

切り抜けるかか注目されます。

この問題の根底には、政治に金がかかり過ぎるという現状があると思いが、実際に選挙活動にどのくらいかかっているかははっきりしません。また、選挙のたびに、明らかに売名目的とみられるような無責任な候補者が現れますが、この対策も考える必要があります。

政治不信と民主主義の危機

「指導された民主主義」(Guided Democracy)の提唱者として有名が、今のように、女性を含めて、一人一票の完全な普通選挙制になったのは戦後、新憲法になってからです。だからその歴史は浅く、今後いろいろな試行錯誤を繰り返しながら改善されていくべきものだと思います。

「指導された民主主義」(Guided Democracy)の提唱者として有名が、今のように、女性を含めて、一人一票の完全な普通選挙制になったのは戦後、新憲法になってからです。だからその歴史は浅く、今後いろいろな試行錯誤を繰り返しながら改善されていくべきものだと思います。

さまざまな民主主義の形態

諸外国の例を見ても、一口に選挙に基づく民主主義制度といっても実態はさまざまです。例えば、



国会議事堂

多数います。百点満点の民主主義を実行し

他方、日本の政治家の報酬は世界でも最も高い部類に属するといわれ、ある調査によれば国会議



トランプ次期米大統領

員の平均報酬は約3000万円です。世界第3位（1位はシンガポール、2位はナイジェリア）。これを大幅に減額せよという声が強いの、国会議員の報酬額については当然国会による法改正が必要で、実現は容易ではないかと考えます。

ただ、仮に大幅減額するにしても、角を矯（た）めて牛を殺す結果になってはいけません。とくに知名度が不可欠で、そのためには「悪名も無名よりもまし」とばかり故意に奇矯な振る舞いをする人もいます。こういう人に立候補させない手立ても必要でしょう。（一つの対策として、各自自治体の選挙管理委員会が事前に面接して篩（ふる）にかけてか

世襲政治家の功罪

さらに、日本の場合、政治家の世襲の問題があります。例えば、現行憲法の下で内閣総理大臣に

元外交官、ハーバード大学法科大学院卒。元国連環境計画（UNEP）アジア太平洋地域代表、日本国際問題研究所研究局長、元外務参事官。退官後東海大学教授（国際政治学）。現在はエネルギー戦略研究会会長のほか、外交評論家として活躍中。新城市出身、87歳。kaneko@eeec.com.org (コメント) 感想歓迎

◆本欄のバックナンバーはすべて次のサイト (http://www.kanekokuma.jp/) で自由にご覧いただけます。